

花火による子どものやけどに注意しましょう！

夏休みに入り、花火をする機会もあると思いますが、子どもが花火で遊んでいる際にやけどを負ったという事故が発生しています。医療機関ネットワーク※には2018年度から2022年度までの5年間で事故情報が60件寄せられ、事故に遭った被害者の半数以上は1～3歳児でした。

事例をご紹介します。

- ・ 手持ちの花火が着火した瞬間に驚き、花火を振り回して左腕に花火が貼り付いた。(3歳9カ月)
- ・ 花火で遊んでいる最中に花火の火をつかもうとして受傷。(1歳6カ月)
- ・ 花火を振り回し、直後に風で花火がスカートに飛んで着火し、燃え上がった。(6歳8カ月)
- ・ 手持ちの花火が終わって下に落ちていたものを触って右手を受傷。(1歳6カ月)

向かい風で花火を持つと、火花等によりやけどを負う危険性があります。肌の露出が多い服装や履物、裾の広がった服装で花火をさせる際には注意が必要です。花火の風下には立たせないようにし、風が強い場合は花火で遊ばせないようにしましょう。

花火で遊ばせる前には、消火用の水を用意して、花火が消えたらすぐに水につけましょう。温度が低いように見える燃えカスでも高温の可能性もあります。

着衣に着火した場合には、水をかけて消火をすることが第一です。絶対に走ったりせず止まって、倒れて燃えている部分を地面に押し付け、転がって消火する対処法(ストップ・ドロップ・アンド・ロール)を覚えておきましょう。

※ 消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診した事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しました。

(参考:国民生活センターウェブサイト)

